

## 案件概要表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ボリビア多民族国
2. 事業名	日系人社会が牽引する持続的な循環型農業システム確立のための支援
3. 事業の背景と必要性	対象地域では、日系移住者が開墾した元来肥沃度の高い土壌を利用した農業が営まれてきたが、近年では土壌劣化により生産性の低下が著しい。持続的な農業を実践するために耕畜連携による循環型農業システムの導入が不可欠となっている。
4. プロジェクト目標	耕畜連携による循環型農業システムに関する営農技術を、CAICO 等の現地試験機関が農業生産者へ提供できるようになる。
5. 対象地域	日系移住地であるオキナワ市とサンファン市を含むサンタクルス県
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	直接的受益者：オキナワ農協 (CAICO) 試験場、サンファン農協 (CAISY) 試験場、サンタクルス熱帯農業研究センター (CIAT)、搾油生産物・小麦生産者協会 (ANAPO)、ガブリエル・レネ・モレノ国立自治大学 (UAGRM) に所属する技術者 間接的受益者：オキナワ農協 CAICO の組合員、サンファン農協 CAISY の組合員、オキナワ、サンファン両地域のボリビア人農業生産者、搾油生産物・小麦生産者協会 (ANAPO) の組合員、ガブリエル・レネ・モレノ国立自治大学の学生、サンタクルス県全域の農業生産者
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p>&lt;アウトプット&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農地の地力回復と土壌肥沃度の維持に向けた土壌管理方法を確立しその技術を習得すること。</li> <li>2. 資源循環を考慮した安定的な畜牧体系を確立しその技術を習得すること。</li> <li>3. 技術普及体制を整備し、循環型農業に関する営農技術を広く営農者に対して提供出来るようになること。</li> </ol> <p>&lt;活動&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 専門家がオキナワ農協試験場、サンファン農協試験場と協議し、土壌管理に関する技術開発や普及のための人材候補を選定する。</li> <li>1-2 専門家がオキナワ農協試験場、サンファン農協試験場と共同し、両試験場が関与する地域内において問題土壌の要因と分布を把握する。</li> <li>1-3 専門家がオキナワ農協試験場、サンファン農協試験場と共同し、両試験場または対象地域内の農地において土壌改良法の有効性を検証する。</li> <li>1-4 専門家が土壌肥沃度の維持のために有機質資材・バイオチャー・緑肥を活用した試験を、カウンターパートに対して指導し実施して、その効果について評価する。</li> <li>1-5 専門家がオキナワ農協試験場、サンファン農協試験場における土壌や栽培に関わる人材を選抜し、施肥システムや普及活動に関する日本での研修を定期的実施する。</li> <li>1-6 専門家がオキナワ農協試験場、サンファン農協試験場と共同し、各種試験実施圃場において案内板などを整備し、展示圃場としての機能を向上させる。</li> <li>1-7 オキナワ農協試験場、サンファン農協試験場が主体となり専門家と共同して、土壌・作物診断に基づいた施肥設計や土壌管理のためのマニュアル等を作成するとともに更新できる体制を整える。</li> <li>2-1 専門家がカウンターパートと協議し、畜産振興に関する技術開発や普及のための人材候補を選定する。</li> <li>2-2 専門家がオキナワ農協試験場、サンファン農協試験場における畜産に関わる人材を選抜し、持続安定的な畜牧体系に関する日本での研修を定期的実施する。</li> <li>2-3 専門家がオキナワ農協試験場、サンファン農協試験場と共同し、両試験場が関与する地域内の放牧システムおよび粗飼料の栄養価を再評価する。</li> <li>2-4 専門家がオキナワ農協試験場、サンファン農協試験場と共同し、肥育の導入などにより畜産農家における牛肉生産システムを改善する。</li> <li>2-5 専門家がオキナワ農協試験場と共同し、フィードロットを利用した家畜排せつ物の集積と有機質資材供給システムを構築する。さらにサンファン農協試験場も含めて地域の実状に見合った家畜排せつ物の有効利用に関する技術を確立する。</li> <li>2-6 専門家がオキナワ農協試験場、サンファン農協試験場を定期的訪問し、肉牛・乳牛の繁殖技術の改善とその普及について、既存施設を有効に活用した指導を行う。</li> <li>2-7 オキナワ農協試験場、サンファン農協試験場が主体となり専門家と共同して、技術普及に向けたモデルバーンやリーフレットを整備する。</li> <li>3-1 これまでの技術普及活動は、大学、県研究機関、大規模組合が個別に実施しており、その効果が必ずしも充分ではなかった。普及活動における問題（普及員の育成や資料作成など）を抽出し改善点を明らかにする。</li> <li>3-2 オキナワ農協試験場、サンファン農協試験場、サンタクルス熱帯農業研究センター、搾油生産物・小麦生産者協会、ガブリエル・レネ・モレノ大学から成る技術普及ネットワークを構築し、普及にあたっての情報交換と効率的な普及方法を確立する。</li> </ol>

	3-3 オキナワ農協試験場、サンファン農協試験場が主体となり、オキナワ農協試験場にて優良技術の普及に向けたワークショップを“小麦の日”に実施する。また各機関が実施しているシンポジウムや品評会などにおいても積極的に情報発信を行う。
8. 実施期間	2022年7月5日～2027年7月2日
9. 事業費概算額	106,967千円
10. 現地カウンターパート	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オキナワ農協 (CAICO) 試験場</li> <li>2. サンファン農協 (CAISY) 試験場</li> <li>3. サンタクルス熱帯農業研究センター (CIAT)</li> <li>4. 搾油生産物・小麦生産者協会 (ANAPO)</li> <li>5. ガブリエル・レネ・モレノ国立自治大学 (UAGRM)</li> </ol>
<b>II. 実施団体の概要</b>	
1. 団体名	国立大学法人 北海道大学
2. 活動内容	世界レベルでの研究活動と学部及び大学院教育